



新しい日田の 森林・林業・木材産業振興ビジョン



平成29年度
取組内容

「日田もりビジョン」に掲げる 日田市が目指す森林・林業・木材産業



3つの施策に分けそれぞれに目指す方向性を提示

施策体系	目指す方向性
(1) <u>森林(もり)を守り・育てる</u> (森林、林業に関わる部分)	森林の多面的機能を将来に渡って享受できるように、森林の適正な整備、保全を目指す
(2) <u>森林(もり)を活かす</u> (木材産業に関わる部分)	日田材のブランド化を進め、素材生産から製材、流通、住宅等が一体となった、生産・販売の拡大を目指す
(3) <u>森林(もり)でつながる</u> (木育や市民協働、地域活性化、人材育成など)	積極的に「木」に関わってもらえるような体制づくりと森林・林業・木材産業を担う人材の育成を目指す



(1) 森林(もり)を守り・育てる

①多面的機能を発揮する豊かな森林づくり

- 水郷日田の森林づくり ●災害に強い森林づくり ●市有林の活用

【29年度実績】・流木被害森林緊急整備事業（溪流沿いの森林整備）2,666【重点施策】

⇒ 上津江町上野田の川原川沿いの立木を伐採し、被害防止対策を実施（0.17ha）

・市有林維持管理事業（市有林の維持管理）10,056

⇒ 間伐 7.84ha、下刈 8.74ha

・市有林活用モデル事業（H28～） 28,032

⇒ 市有林の主伐を進め、災害防除やバイオマス利用のための早生樹育成のモデル林等の整備
主伐 5.08ha、植栽 5.08ha、シカネット 2,834m

【30年度新規】**新**流木被害緊急対策事業（市単独事業） 5,000

⇒ 平成29年7月の豪雨災害を受け、県がH29年度から3か年で集中整備を行うこととしており、市も協調して流木被害対策を緊急的に実施



流木被害対策
イメージ（大鶴）

※29年度は決算額、30年度は予算額(単位:千円)

【重点施策】=ビジョンの重点施策事業

以降同様



②持続可能な森林経営の推進

- 人工林の適正管理
- 施業・森林経営の集約化



【29年度実績】 ・ 森林整備総合対策事業（公共造林補助への上乗せ）73,542 **【重点施策】**

・ 有害鳥獣被害防止対策（防護柵設置、捕獲報奨金等）66,673

・ 林道作業道原材料支給事業（生コン等の支給）20,737

⇒支給作業道延長 5,300m

・ 林道維持補修事業（林道の維持補修工事費等）6,748

新 林道点検診断・保全整備事業 3,888

⇒既設の林道について、トンネルや橋梁等の点検、診断及び健全性の評価を行うもの。

新 林業成長産業化地域創出モデル事業 9,612

（再造林促進のための枝条等の林地残材処理及び新規参入による担い手の確保）

⇒枝条等の林地残材を山元でチップ化する実証実験などを行い、燃料等として採算ベースで供給できる体制を構築することで、地ごしらえ等の再造林費用の低減を図る。

【30年度新規】 **新** 統合型GIS森林情報整備事業 443

⇒平成31年度から開始される林地台帳の運用に当たり、市が導入しているGISシステムに県から提供される森林計画図（林班図）を新たに搭載する。



○施策体系別目標値（森林を守り・育てる）

指標名	基準値 (26年度(次))	27年度(次) 実績	28年度(次) 実績	29年度(次)実績 (累計値)	目標値 (平成31年)	備考
1 再造林(植栽)面積	74.97ha	114.89ha	160.75ha	196.82ha (547.43ha)	500ha	累計
2 広葉樹植栽面積	20.74ha	33.06ha	26.87ha	9.79ha (87.54ha)	125ha	累計
3 市有林における広 葉樹への転換面積	0.53ha	0.64ha	1.91ha	2.92ha (6.0ha)	50ha	累計
4 シカによる農林産物 の被害額	11,061千円	10,646千円	9,204千円	9,102千円	9,049千円	単年度
5 シカの捕獲数	1,515頭	1,531頭	1,718頭	1,512頭	1,500頭	単年度
6 森林経営計画 認定率	92.4%	92.7%	92.6%	93.0%	95.0%	累計
7 作業道延長	645,088m	652,007m	786,070m	(851,273m) (H28年度)	670,000m	累計

○指標以外の目標

市有林の植栽においてコンテナ苗の実証	市有林活用モデル事業実施
市有林を活用したモデル事業の検討	〃
主伐促進のため、森林整備に対する上乘せ補助の見直し検討	検討

活↑(2)森林(もり)を活かす

①素材(丸太)の安定供給体制の整備

- 適正な素材(丸太)供給量の確保
- 素材(丸太)流通体制の強化

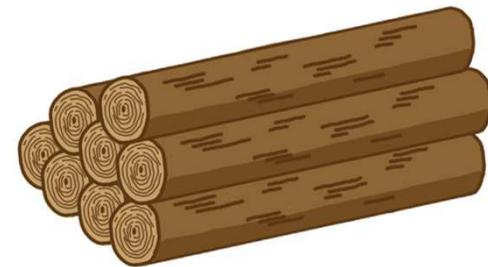
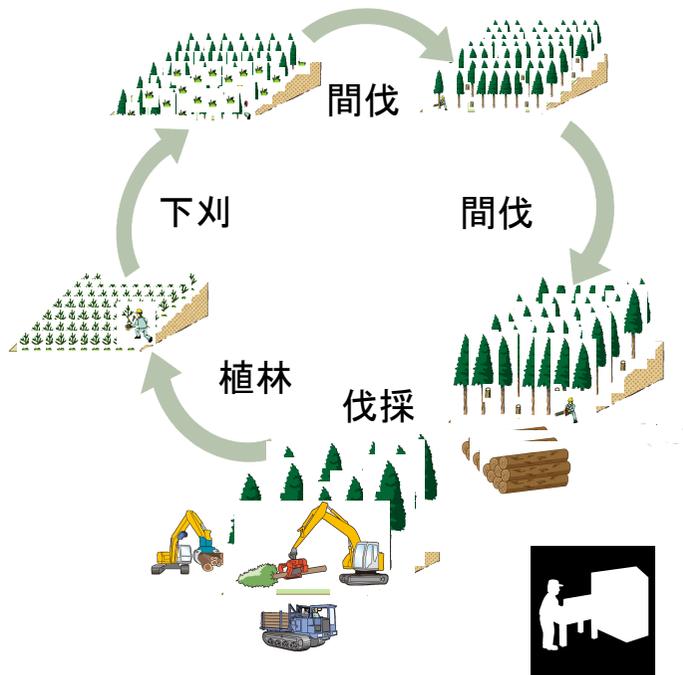
【29年度実績】・森林整備総合対策事業(公共造林補助への上乗せ)(再掲)

・関係団体との意見交換会の開催

⇒山友会(素材生産業者)、日田地区原木市場協同組合、日田素材買方協同組合との協議・意見交換

日田市内素材(丸太)生産量 平成26年次 272千 m^3 ⇒ 平成27年次 330千 m^3 ⇒ 平成28年次 324千 m^3

⇒ 平成29年次 289千 m^3 (暫定値)





②日田材の需要拡大・販売体制の強化

- 販路・販売拡大のための流通機能の強化
- 地域一体となった日田材のブランド化

【29年度実績】木づかい促進事業（日田材・家具の支給） 63,795 【重点施策】



木づかい促進事業

		件数	請負代金 (千円)	全木材 使用量(m ³)	日田材 使用量(m ³)	日田材 使用率 (%)
住宅	新築	114	2,407,360	2,596.84	2,403.67	92.6%
	リフォーム	202	412,711	448.97	436.76	97.3%

(災害分含む)

家具33件

日田材普及啓発事業 1,636 【重点施策】

(国内・海外流通対策)

- ・国内拡販活動、住宅用集成材用構造材（208.50m³）の韓国・中国への出荷助成



木の香る
まちづくり事業

木の香るまちづくり事業 2,944 【重点施策】

(店舗リフォーム補助)

	件数	請負代金(千円)	日田材使用料(m ³)
店舗リフォーム	10	14,709	31.65

うち福岡県都市圏1件

日田材活力創出事業(H28～) 2,897

⇒構成する製材所8社での連携販売量 11,934m³

①新林業成長産業化地域創出モデル事業（再掲） 9,612

(大径材の需要促進と地域の主力である無垢材の供給強化)

- ⇒大径材の価値を高めるため、無垢の梁桁等の加工・乾燥技術の確立、製材システム等の検討・開発を進め需要を創出するとともに、ブランド化を図る。



②日田材の需要拡大・販売体制の強化 (つづき)

【30年度新規】**新**東京オリンピック・パラリンピック日田材PR事業 3,438

⇒当該オリンピックに向けて、新整備される選手村ビレッジプラザでは、建築に必要な木材を全国の自治体から公募し建築される予定で、木材生産地「日田」から木材を供給することで、国内外へのPRと日田材の需要拡大を図る。

- 木材製品のイノベーション推進・需要創造
- 公共建築物等における木造化・木質化の推進

【29年度実績】・木材製品デザイン力向上事業【重点施策】 1,110

⇒日田材を使った新商品開発等の助成 3名

・公共建築物等地域材利用状況

⇒公民館など14施設
地域材利用材積 478.5m³



花月コミュニティセンター

新林業成長産業化地域創出モデル事業（再掲） 9,612 （多様な高付加価値商品の開発）

⇒スギやヒノキの新たな利活用を図るとともに、早生樹も含め、地場産業である家具やインテリア、住宅用内装材などの高付加価値化商品への活用を図る。

新地域材ブランド化事業 150

⇒国際認証であるSGECのCoC認証の取得費用を助成

③森林資源の有効活用の推進

- 未利用森林資源の有効活用の推進
- 特用林産物の振興

【29年度実績】

- ・ しいたけ生産後継者育成事業（機械導入等） 1,290
⇒新規参入者機械導入助成 1名、種駒助成 7名
- ・ しいたけ生産活性化総合対策事業（施設整備等） 5,003
⇒施設整備等助成 3名
- ・ 優良竹林化整備事業（タケノコ生産用竹林整備等） 661
- ・ 市有林をワサビ圃場に貸出
⇒3.50ha、17名に貸出（H30.3.31現在）
- ・ **新** 林業成長産業化地域創出モデル事業（再掲） 9,612
（再造林促進のための枝条等の林地残材処理及び新規参入による担い手の確保）
⇒枝条等の林地残材を山元でチップ化する実証実験などを行い、バイオマス燃料等として採算ベースで供給できる体制を構築し、地ごしらえ等の再造林費用の低減を図る。



「しいたけもりりん」



○施策体系別目標値（森林を活かす）

指標名	基準値 (26年度(次))	27年度(次) 実績	28年度(次) 実績	29年度(次) 実績	目標値 (平成31年)	備考
1 素材生産量	272,018m ³	329,757m ³	323,508m ³	288,598m³ (暫定値)	300,000m ³	単年度
2 間伐面積	809.41ha	417.64ha	585.33ha	398.19ha	850ha	単年度
3 木材製造品出荷額 (家具製品は除く)	1,466千万円 (H25年度)	1,567千万円 (H26年度)	1,285千万円 (H27年次)	1,639千万円 (H28年次)	1,610千円	単年度
4 乾燥木材生産量 (大分方式認証工場分)	69,195m ³	75,838m ³	84,432m ³	94,479m³	77,000m ³	単年度
5 乾しいたけ生産量	152.9t	128.1t	140.2t	121.3t	164t	単年度
6 生しいたけ生産量	121.8t	106.9t	100.7t	92.1t	130t	単年度

○指標以外の目標

日田スギポータルサイトの開設	27年度開設(日田木協)
木材製品の開発促進補助の検討	研究開発支援事業(28年度～)
関係機関と連携し、公共施設や公益性の高い民間施設の木造木質化の推進	29年度 14施設木造・木質化



(3) 森林(もり) でつながる

- ①市民の森林・林業・木材産業への関心・理解、保全活動推進
- 森林環境教育による市民意識の醸成
 - 市民参加による森林保全活動の推進

【29年度実績】 ・ 市民参加の森づくり事業（植樹祭の開催） 568 【重点施策】

⇒ 萩尾市有林での植樹祭の開催 福岡都市圏との交流



木育講演会

・ 日田スギ木育推進事業 54 【重点施策】

熊本大学田口教授の講演会

・ 木と暮らしのフェア開催 1,200 【重点施策】

⇒ 主催：日田地域林業・木材産業活性化協議会



木と暮らしのフェア



- ②森林資源を活用した地域の活性化
- 地域資源を活用した産業観光の振興
 - 市民が集える森林空間の整備
 - 域内外への情報発信強化

【29年度実績】 ・ 柿ノ谷地区森林づくり事業 392（森林環境税を活用）

⇒国有林と一体となった交流活動のための整備



モクコレ

⑨ WOODコレクション2018（モクコレ）への出展

⇒顔の見える日田材の家づくり等推進協議会が日田材で2畳程度の座禅部屋と勉強部屋の開発をおこない、モクコレへ出展することで、日田材のPRを図る

【30年度新規】 **⑨** 森林活用アウトドア環境整備事業 2,000

⇒萩尾公園内の遊歩道を活用したトレイルコースを整備(案内・誘導サイン置)し、新設記念行事として、天領日田トレイル駅伝を実施(12/16(日))



- ③森林・林業・木材産業を支える担い手の確保・育成
- 担い手の確保・育成
 - 地域リーダーの育成

【29年度実績】 ・豊かな森づくり担い手育成事業 14,443

⇒林業事業体職員の福利厚生・共済掛金等の助成

・木造建築普及促進セミナーの開催 **【重点施策】**

⇒主催：日田木材協同組合

中・大規模建築物の木造化を推進するため、県内外の建築士を対象とし、実践的な座学や木材産業の工場視察などを行い、中大規模の木造建築物を設計できる人材を育成（20名参加）

講師：安藤直人（東京大学名誉教授）ほか

・豊かな森づくり担い手育成事業（アカデミー研修助成） 604

⇒H28年に新設された「おおいた林業アカデミー」研修生3人への助成

【30年度新規】 **新**ひた林業就業体験ツアー事業 508

⇒林業に興味があり就業を希望する方を対象に、林業の仕事体験や原木市場・製材所見学を行う2日間のツアーを開催し、林業への新たな就業につなげる。



○施策体系別目標値（森林でつながる）

指標名	基準値 (26年度(次))	27年度(次) 実績(累計)	28年度(次) 実績(累計)	29年度(次) 実績(累計)	目標値 (平成31年)	備考
1 産業観光プログラムによる交流人口	0人	0人	1,399人	1,553人	2,000人	単年度
2 森林づくり大会参加者数	289人	269人	235人	540人 (県共同開催)	350人	単年度
3 SNS読者数(Facebook ページいいね数)	171人	282人	436人	(449人)	500人	累計
4 認定林業事業者数	19事業者	19事業者	22事業者	(22事業者)	20事業者	累計
5 新規林業就業者数	18人	15人	12人	26人	20人	単年度

○指標以外の目標

関係機関と連携し、産業観光プログラムの検討	検討会の開催、産業観光フォーラムとの連携
新規林業就業者確保を目的とした支援制度の検討	林業アカデミー受講支援(28年度～)
林業就業者への雇用安定対策の検討	助成対象の拡大(28年度～)